



病虫害防除情報

令和2年 9月 4日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 チャの炭疽病とチャノミドリヒメヨコバイについて

2 情報内容

(1) 気象要因等について

9月3日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、平年より高い確率80%、降水量は、ほぼ平年並です。

(2) 炭疽病

本病は、糸状菌（カビ）が原因で起こるチャの代表的な病気です。二番茶摘採後の7月下旬から秋期にかけて病葉が増加します。発病すると落葉あるいは葉枯れにより樹勢が衰え、翌年以降の生産に影響を及ぼします。

本病は、茶芽の開葉期に雨が多いと感染しやすくなり、梅雨が長引いた本年は発生が多い状態が続いています。

特に「さやまかおり」、「やぶきた」、「ふくみどり」などは本病に弱いので注意が必要です。

窒素質肥料の多用をさけつつ、秋雨や台風の前に防除しましょう。



炭疽病の発病葉

表1 炭疽病の防除薬剤例

薬剤名	FRACコード	使用時期	使用回数
オンリーワンフロアブル	3	摘採7日前まで	2回以内
スコア顆粒水和剤	3	摘採7日前まで	2回以内
インダーフロアブル	3	摘採7日前まで	2回以内
ダコニール1000	M05	摘採10日前まで	1回
アミスター20フロアブル	11	摘採14日前まで	3回以内
フロンサイドSC	29	摘採14日前まで	1回

(使用基準は令和2年9月1日現在)

(3) チャノミドリヒメヨコバイ

本虫は、幼虫、成虫ともに新梢の葉裏に生息し吸汁加害するため、葉脈が褐変します。加害が多いと新芽が萎縮し、葉の一部が褐変枯死するため、来春の収量に影響します。

発生が多く認められる園では、早急に防除しましょう。



チャノミドリヒメヨコバイによる被害葉（葉の一部が褐変枯死）

表2 チャノミドリヒメヨコバイの防除薬剤例

薬剤名	IRACコード	使用時期	使用回数
MR. ジョーカー水和剤	3 A	摘採21日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	4 A	摘採7日前まで	1回
コルト顆粒水和剤	9 B	摘採7日前まで	2回以内
コテツフロアブル*	1 3	摘採7日前まで	2回以内
ハチハチ乳剤*	2 1 A	摘採14日前まで	1回
ウララDF	2 9	摘採7日前まで	1回

* 劇物

(使用基準は令和2年9月1日現在)

3 IRACコード及びFRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。